2008年3月期　決算説明会

2008年5月27日



代表取締役社長

山　口　　隆

あすか製薬株式会社

今日お話しする内容

- 2008年3月期決算概要
- 研究開発の現状
- 二つの領域とジェネリック品の取組み

  ・内科領域　・産婦人科領域　・ジェネリック品
- 新生産体制について

2008年3月期決算概要



あすか製薬株式会社

2008年3月期連結決算の総括

- 売　上 高　　30,170百万円（前同比　　0.4%減）
- 営業利益　　1,758百万円（前同比　12.9%減）
- 経常利益　　2,042百万円（前同比　　1.6%減）
- 当期純利益　　3,513百万円（前同比　262.3%増）

総括

1. 主力品の競争激化、薬価改定前の買い控え等により減収
2. 営業利益および経常利益は、人件費や販売費の削減に努めたが、研究開発費の増加等により減益
3. 当期純利益は、特別利益の計上により大幅増益

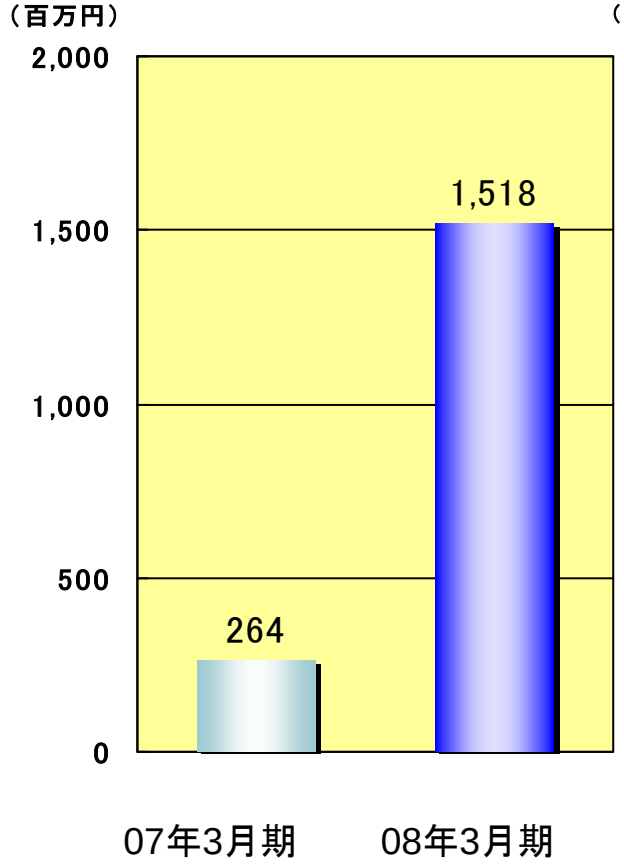
連結損益計算書

（金額単位：百万円）

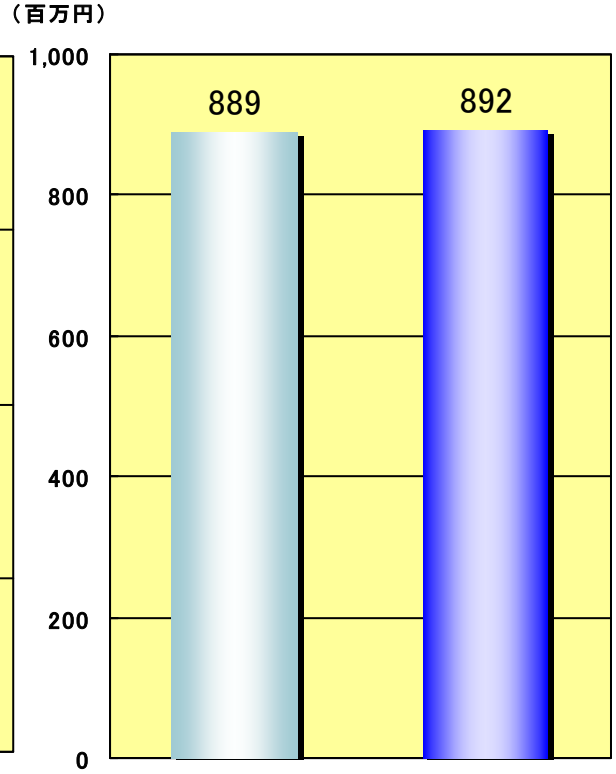
	07年3月期 実績	08年3月期 実績	増　減	前同比	備　考
売上高	30,301	30,170	△130	99.6	〈増収要因〉 動物用医薬品　＋96 工業所有権等　＋428 〈減収要因〉 医療用医薬品　△112 診断薬　△569（譲渡）
売上原価	10,221	10,159	△62	99.4	売上原価率　33.7%（横ばい）
売上総利益	20,079	20,011	△68	99.7	
販管費	18,060	18,252	192	101.1	
営業利益	2,019	1,758	△261	87.1	
経常利益	2,075	2,042	△32	98.4	
特別損益	△121	4,552	4,673	―	
純利益	969	3,513	2,543	362.3	

設備投資などの概要

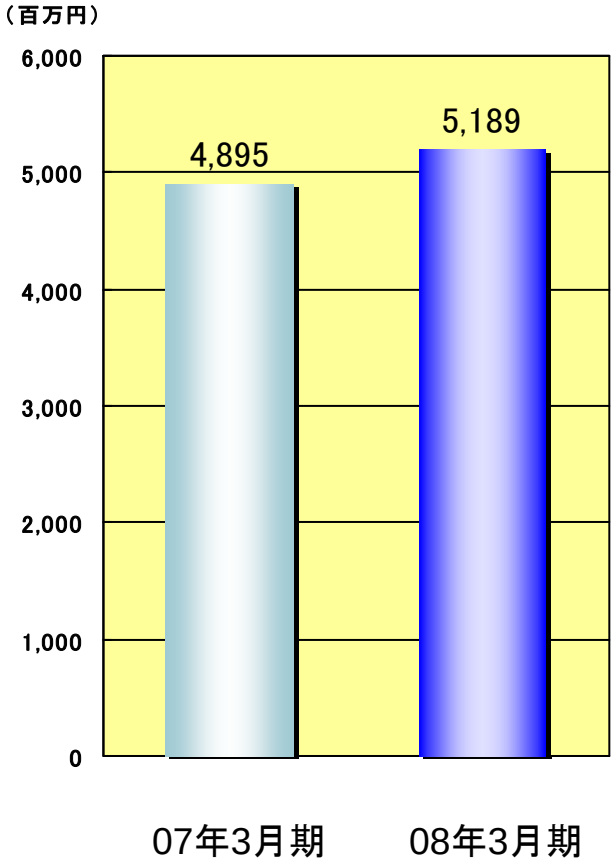
設備投資



減価償却費



研究開発費



連結貸借対照表

（金額単位：百万円 ）

借　方

	07年3月期	08年3月期	増 減
流動資産	27,766	28,053	287
固定資産	24,216	22,363	△1,852
資産合計	51,982	50,417	△1,565

貸　方

	07年3月期	08年3月期	増 減
流動負債	11,823	7,333	△4,489
固定負債	8,486	9,339	853
負債合計	20,309	16,673	△3,635
純資産合計	31,673	33,743	2,070

流動資産増因	：	現金及び預金	△3,108
		受取手形及び売掛金	△4,793
		有価証券	＋8,080
固定資産減因	：	投資有価証券	△1,782

流動負債減因	：	短期借入金	△4,170
固定負債増因	：	退職給付引当金	＋709
純資産増因	：	利益剰余金	＋3,090
		有価証券評価差額金	△1,012

連結キャッシュ・フロー計算書

（金額単位：百万円）

	07年3月期	08年3月期	増　減
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,361	6,014	4,653
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,294	2,167	872
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,658	△4,226	△2,568
現金及び現金同等物等の期末残高	8,810	12,765	3,955

連結事業別販売実績

（金額単位：百万円）

	07年3月期	08年3月期	構成比 (%)	増 減	前同比 (%)
医療用医薬品	28,580	27,989	92.8	△591	97.9
一般用医薬品	160	145	0.5	△14	90.9
動物用医薬品	1,023	1,119	3.7	96	109.5
医　療　機　器	67	69	0.2	2	104.0
そ　の　他	471	846	2.8	375	179.6
合　計	30,301	30,170	100.0	△130	99.6

重点4領域別売上推移

（金額単位：百万円）

	07年3月期		08年3月期		前同比(%)
	実　績	領域シェア(%)	実　績	領域シェア(%)	
内科領域	15,520	55.7	15,020	53.9	96.8
泌尿器科領域	5,712	20.5	5,640	20.2	98.7
産婦人科領域	2,695	9.7	3,397	12.2	126.0
耳鼻科領域	3,957	14.2	3,830	13.7	96.8

2009年3月期計画



あすか製薬株式会社

2009年3月期計画(連結)

(金額単位:百万円)

	08年3月期 実　　績	09年3月期 計　　画	増　　減	備　　考
売　上　高	30,170	31,700	1,530	増減要因 医療用医薬品　＋1,999 (リピディル　＋549、 アムロジピン・ メサラジン・イソソルビド　＋1,400) 工業所有権△552
売 上 原 価	10,159	11,670	1,511	売上原価率＋3.1ポイント(33.7%→36.8%)
売上総利益	20,011	20,030	19	
販　管　費	18,252	18,210	△42	
営 業 利 益	1,758	1,820	62	

重点4領域別計画

（金額単位：百万円）

	08年3月期		09年3月期		前同比(%)
	実　績	領域シェア(%)	計　画	領域シェア(%)	
内科領域	15,020	53.9	16,480	55.0	109.7
泌尿器科領域	5,640	20.2	5,551	18.5	98.4
産婦人科領域	3,397	12.2	3,620	12.1	106.6
耳鼻科領域	3,830	13.7	4,295	14.3	112.1

主要製品別売上推移

（金額単位：百万円）

	製品名	領域	主効能	07年3月期	08年3月期	09年3月期	
				実　績	実　績	計画	前同比(%)
	アルタット	内	胃・十二指腸潰瘍	4,129	3,710	3,636	98.0
	リピディル	内	高脂血症	3,486	3,750	4,300	114.7
	チラーヂン	内	甲状腺機能低下症	3,383	3,462	3,554	102.7
※	ラミアン	内	高脂血症	919	795	794	99.8
※	7月追補収載品	内	2品目	—	—	1,200	—
	プロスタール	泌	前立腺肥大症・癌	4,591	4,555	4,540	99.6
※	ミクトノーム	泌	頻尿、尿失禁	346	293	285	97.3
※	リストリーム	泌	前立腺肥大症に伴う排尿障害	584	616	570	92.5
	アンジュ	産	避　妊	931	963	1,103	114.4
	HMG	産	下垂体性無月経の排卵誘発	433	897	987	110.0
※	ゴナピュール	産	下垂体性無月経の排卵誘発	127	363	462	126.9
※	ミリカレット	耳	アレルギー性鼻炎	527	571	721	126.0
※	マインベース	耳	一般感染症	290	268	385	143.7
※	7月追補収載品	耳	1品目	—	—	200	—

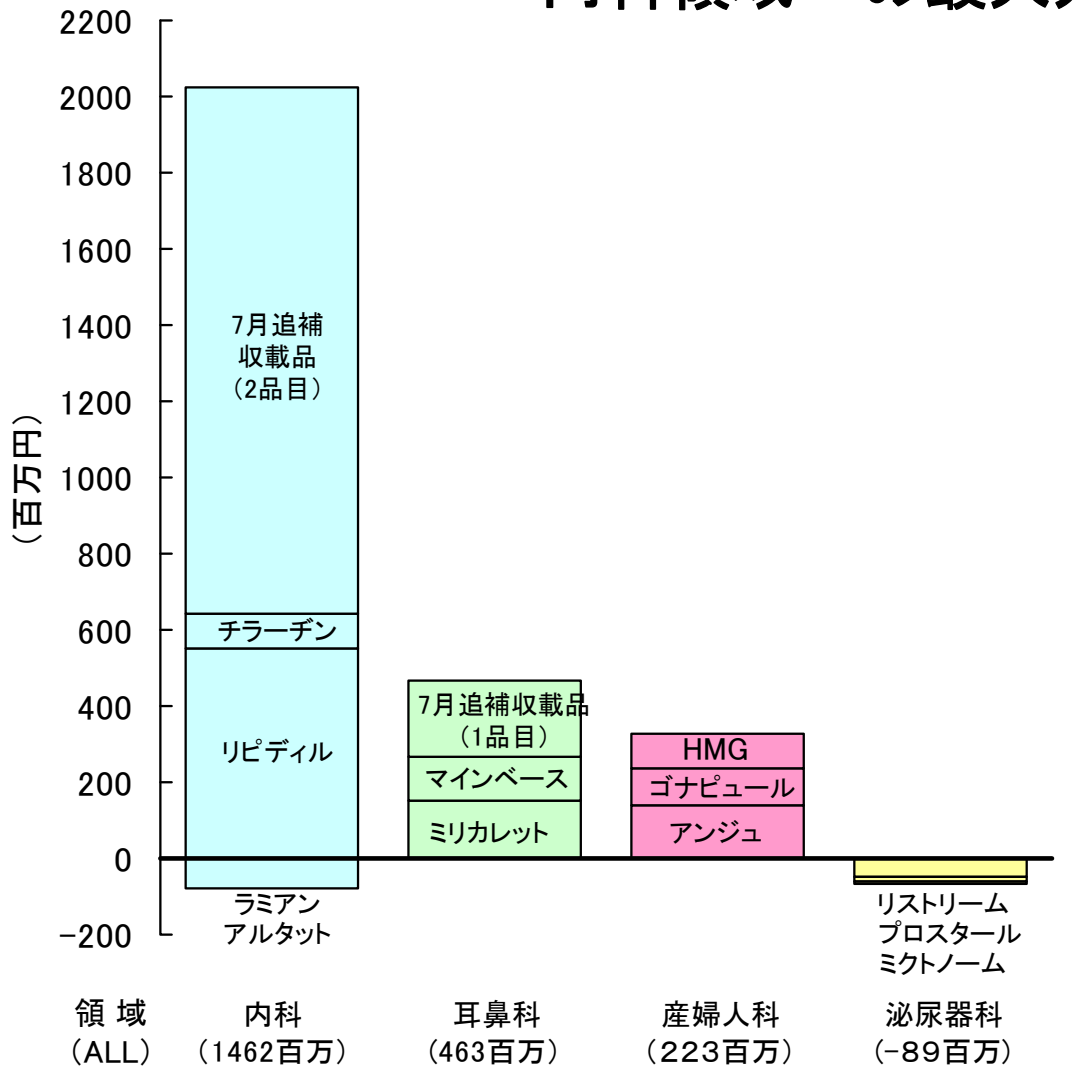
※：ジェネリック製品

内：内科　泌：泌尿器科　産：産婦人科　耳：耳鼻科

2009年3月期

領域別での主要製品計画

～内科領域への最大入力～



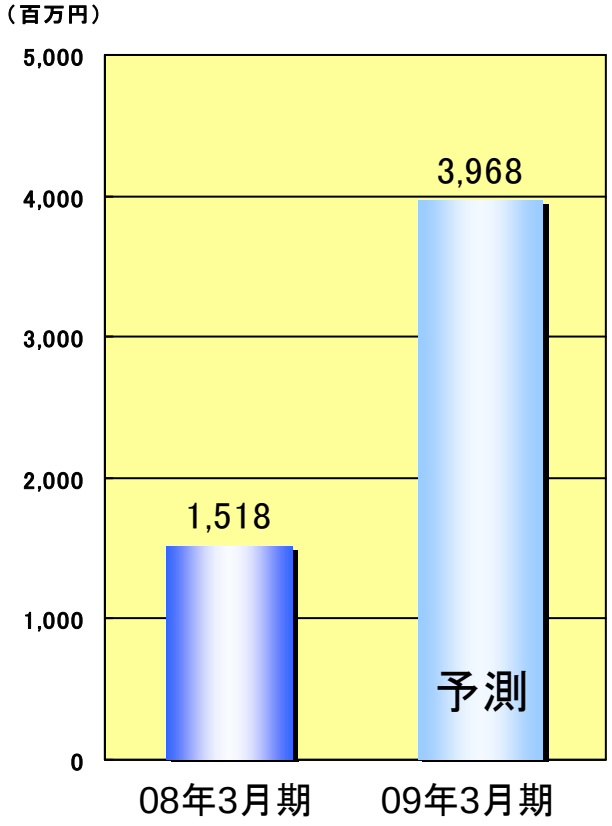
- リピディル　14.7%up
  ［高脂血症］
  国内臨床試験によるエビデンスの構築
  エゼチミブとの併用による有効性と安全性の検討

- HMG　10.0%up
  ［下垂体性無月経の排卵誘発］
- ゴナピュール　26.9%up
  ［下垂体性無月経の排卵誘発］
  メルクセローノ社とのコ･プロモーションによる

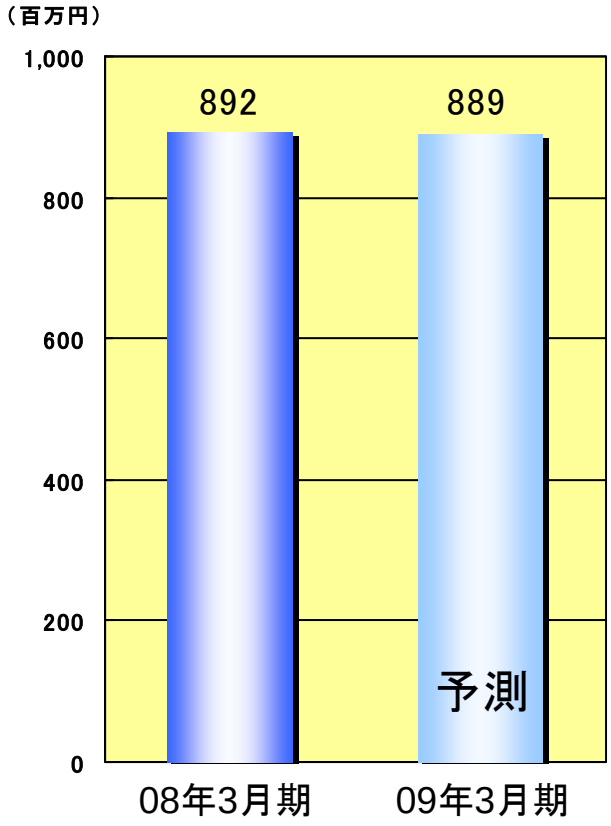
- 7月追補収載品
  3品目の上市

2009年3月期設備投資等の概要

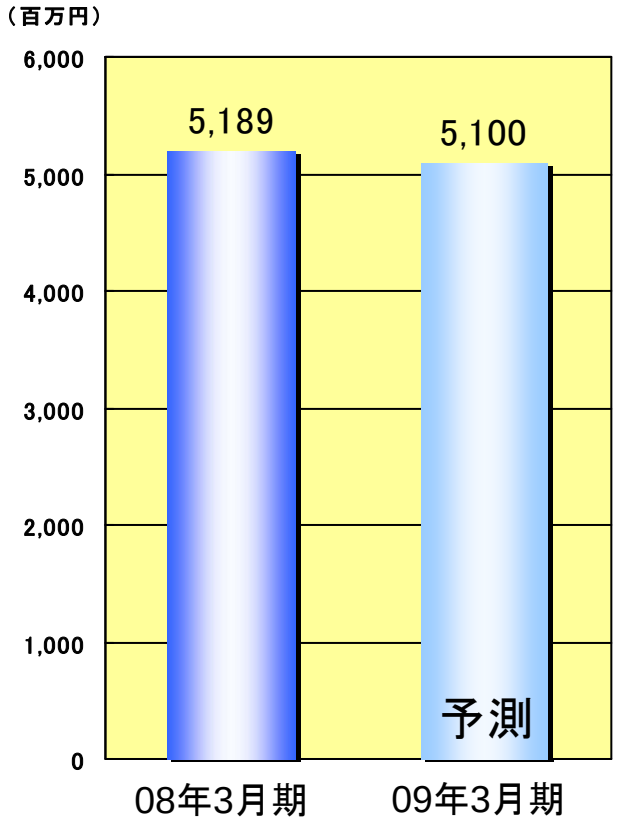
設備投資



減価償却費



研究開発費



研究開発の現状



新薬開発状況（基礎段階テーマを除く）

2008年5月現在

開発段階	開発コード	起　源	適応症	特　長	上市時期
申請中	RPR106522（ﾒﾉｴｲﾄﾞ）	ｻﾉﾌｨ･ｱﾍﾞﾝﾃｨｽより導入（ﾔｸﾙﾄ本社との共同開発）	更年期障害	ﾌﾟﾛｹﾞｽﾄｰｹﾞﾝを配合した有用性の高い貼付製剤	2009年
第Ⅲ相	BNP7787	BioNumerik社より導入	抗悪性腫瘍剤（ﾀｷｻﾝ系及びﾌﾟﾗﾁﾅ系）投与に伴う神経障害の発現抑制		2013年
第Ⅲ相	AKP-005	自社開発品	低ゴナドトロピン性男子性腺機能低下症における精子形成の誘導	ｺﾞﾅﾄﾛﾋﾟﾝ効能追加	2008年
第Ⅱ相	TZT-1027	自社開発品	固形癌	幅広い抗腫瘍ｽﾍﾟｸﾄﾗﾑを有する	未定
第Ⅱ相	GPD-1116	自社開発品	喘息 慢性閉塞性肺疾患	PDE4選択的阻害作用を有する薬剤	未定
第Ⅰ相	AKP-001	自社開発品	炎症性腸疾患	局所で作用して、全身的な副作用のない薬剤	未定
第Ⅰ相	BNP1350	BioNumerik社より導入	悪性腫瘍	新規（消化器毒性の少ない）の経口ｶﾝﾌﾟﾄﾃｼﾝ誘導体	未定
第Ⅰ相	AKP-002	自社開発品	泌尿器疾患		未定

申請中

RPR106522(メノエイドパッチ)

～更年期障害への新たな薬物治療の提案～

08年12月
承認(予定)

→

09年3月
発売(予定)

◎国内初の配合貼付剤
(卵胞ホルモン＋黄体ホルモン)

◎医療ニーズへの対応
(医療施設)
・2種類を使用する煩雑さの解消
(患者様)
・コンプライアンスの向上
・QOL改善
・安全性

市場開拓

現在の卵胞ホルモン製剤
市場：約23億円

新ガイドラインに基づき
有用性啓発で市場を拡大

↓

ピーク時20億円以上

Better quality of life for women

第Ⅲ相

BNP7787(タボセプト)

国内第Ⅲ相臨床試験(3月発表)成績の概要

・化学療法による重度の末梢神経障害の発現を半数に抑えた。
・QOLスコアで良好な結果が得られた。
・中央生存期間の延長が認められた。
・化学療法由来の腎障害、消化器毒性(嘔吐等)及び貧血症状の有意な軽減が認められた。

＜今後のスケジュール＞

継続して癌化学療法治療患者に対する副作用軽減、生存期間延長および化学療法由来の腎障害軽減等についての検証に向け、臨床試験を継続実施する。

第Ⅰ相

BNP－1350

高脂溶性のカンプトテシン誘導体

特　徴　：　消化器毒性，血液毒性が少ない

剤　型　：　注射剤，経口剤

適応症　：　卵巣癌

開発stage：

国内	第Ⅰ相（固形癌）
米国	第Ⅲ相（卵巣癌） 第Ⅱ相（悪性神経膠腫，非小細胞肺癌，悪性黒色腫） 第Ⅰ/Ⅱ相（経口剤：固形癌/非小細胞肺癌

経口フィルム製剤

■技術適用戦略

①既発売品のライフサイクルマネージメント

②今後発売されるニュータイプジェネリック

③他社製品の受託開発・製造



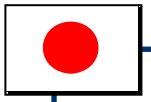
バイオ医薬(バイオシミラー)



- 包括ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ制定(2006年2月)，製品別ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ制定(2006年3月)
- 承認状況:ﾋﾄ成長ﾎﾙﾓﾝ(2006年4月承認)， EPO(2007年8月承認)， G-CSF(申請中)



- 具体的なﾊﾞｲｵｼﾐﾗｰ法案が公表(2008年3月)



- 厚生労働省科学研究班を中心に作業を進めており、早ければ1～2ヶ月後をめどにバイオシミラーガイドライン案をまとめ、意見募集を経て、今年度中に正式にまとめる(2008年4月)

あすか開発品

開発段階	開発ｺｰﾄﾞ	起　源	適応症	特　長	市場性
前臨床	AKP-501	JCRより導入 共同開発	不妊症	完全無血清培養 (感染症リスクの解消)	国内　60億円 国外 1000億円
前臨床	JR-032		ﾑｺ多糖症II型 (ﾊﾝﾀｰ病)	完全無血清培養(感染症リスクの解消) 国産初の治療剤	国内　70億円 国外　460億円

二つの領域とジェネリック品の取組み



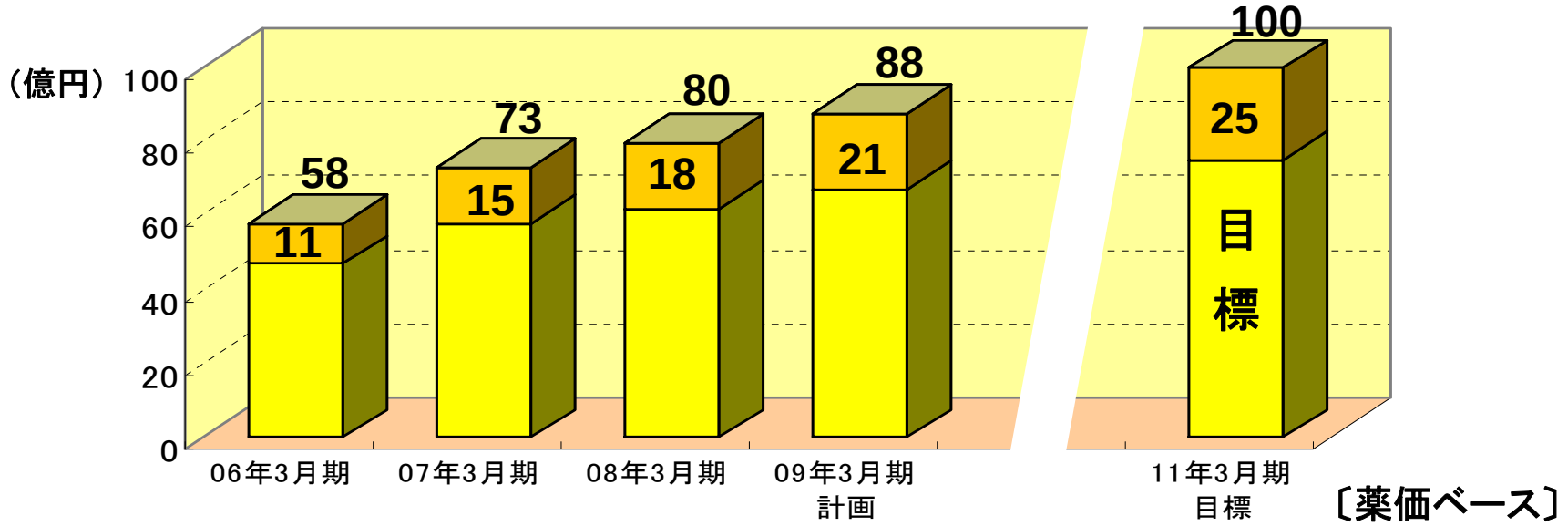
・内科領域　・産婦人科領域　・ジェネリック品

内科領域への取り組み

フェノフィブラート（販売3社）の最大化を進め市場トップシェアを目指す
（目標売上高-2010年度100億円）

ターゲット市場：生活習慣病に伴うⅡb型高脂血症

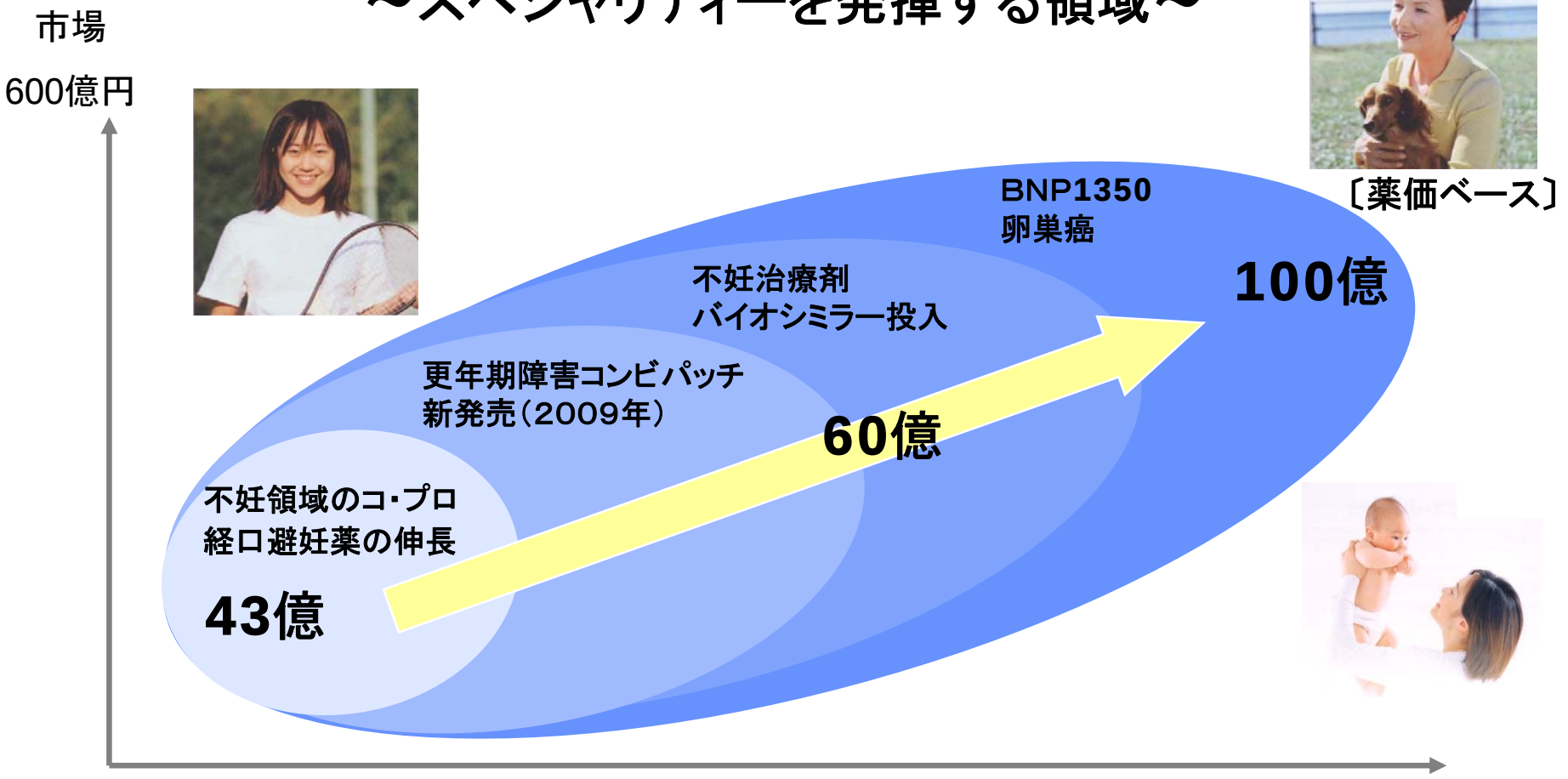
- **国内臨床試験実施によるエビデンスの構築**　　日本初　臨床試験スタート
  - 対象患者：Ⅱb型高脂血症患者
  - 目的：フェノフィブラートとエゼチミブ併用の有効性と安全性の検討
  - 目標症例：300症例　（50施設）
- FIELD-Studyの活用
- 特定検診制度開始に伴う要治療患者の取り込み
- 婦人科への積極的なアプローチ



〔薬価ベース〕

産婦人科領域への取組み

～スペシャリティーを発揮する領域～

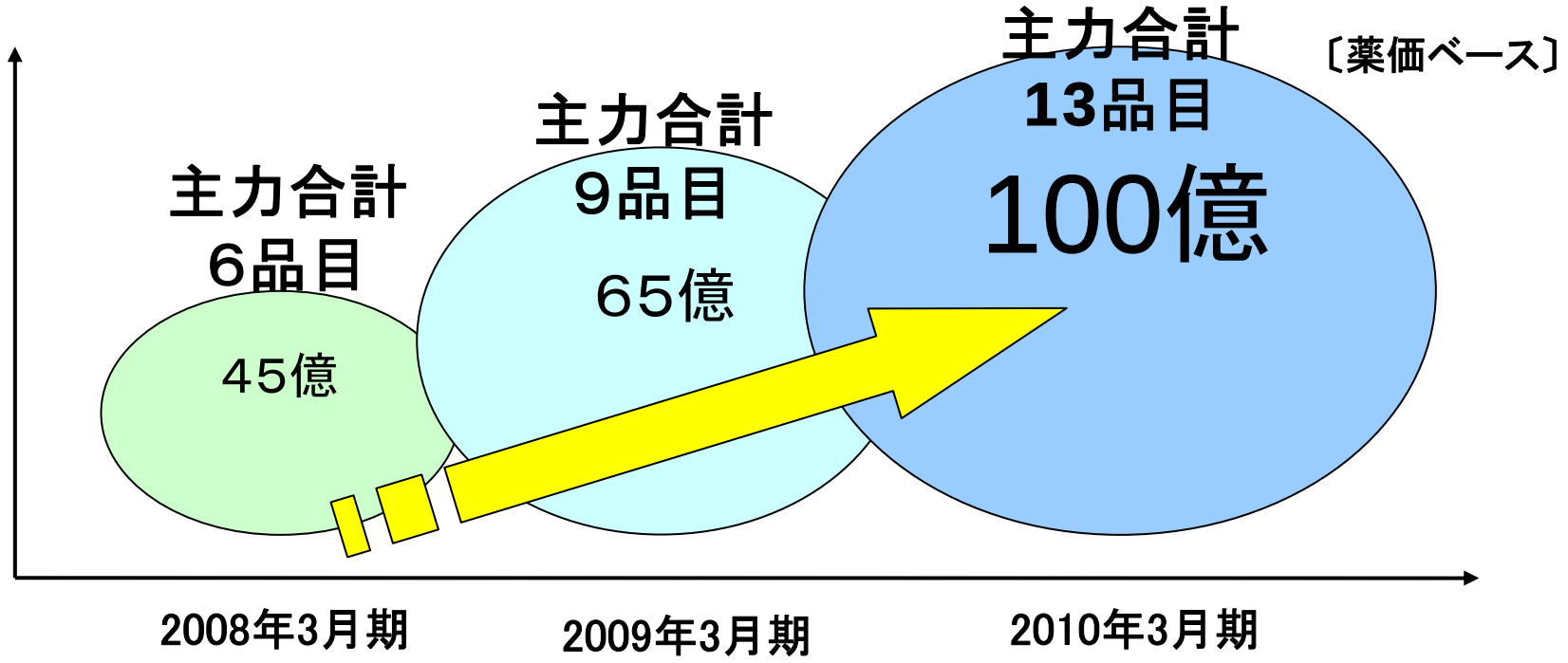


あすか製薬は
女性のreproductive healthとQOLをサポートします。

ジェネリック100億円のシナリオ

～重点4領域に絞った品揃え～

一般名	科	今年度売上見込み	適応症	ピーク時売上
ｱﾑﾛｼﾞﾋﾟﾝ	内	15億円	高血圧症、狭心症	30億円以上
ﾒｻﾗｼﾞﾝ	内	2億円	潰瘍性大腸炎、ｸﾛｰﾝ病	5億円以上
ｲｿｿﾙﾋﾞﾄﾞ	耳	3億円	脳圧降下、眼圧降下 腎･尿管結石利尿、ﾒﾆｴｰﾙ病	5億円以上



新生産体制について



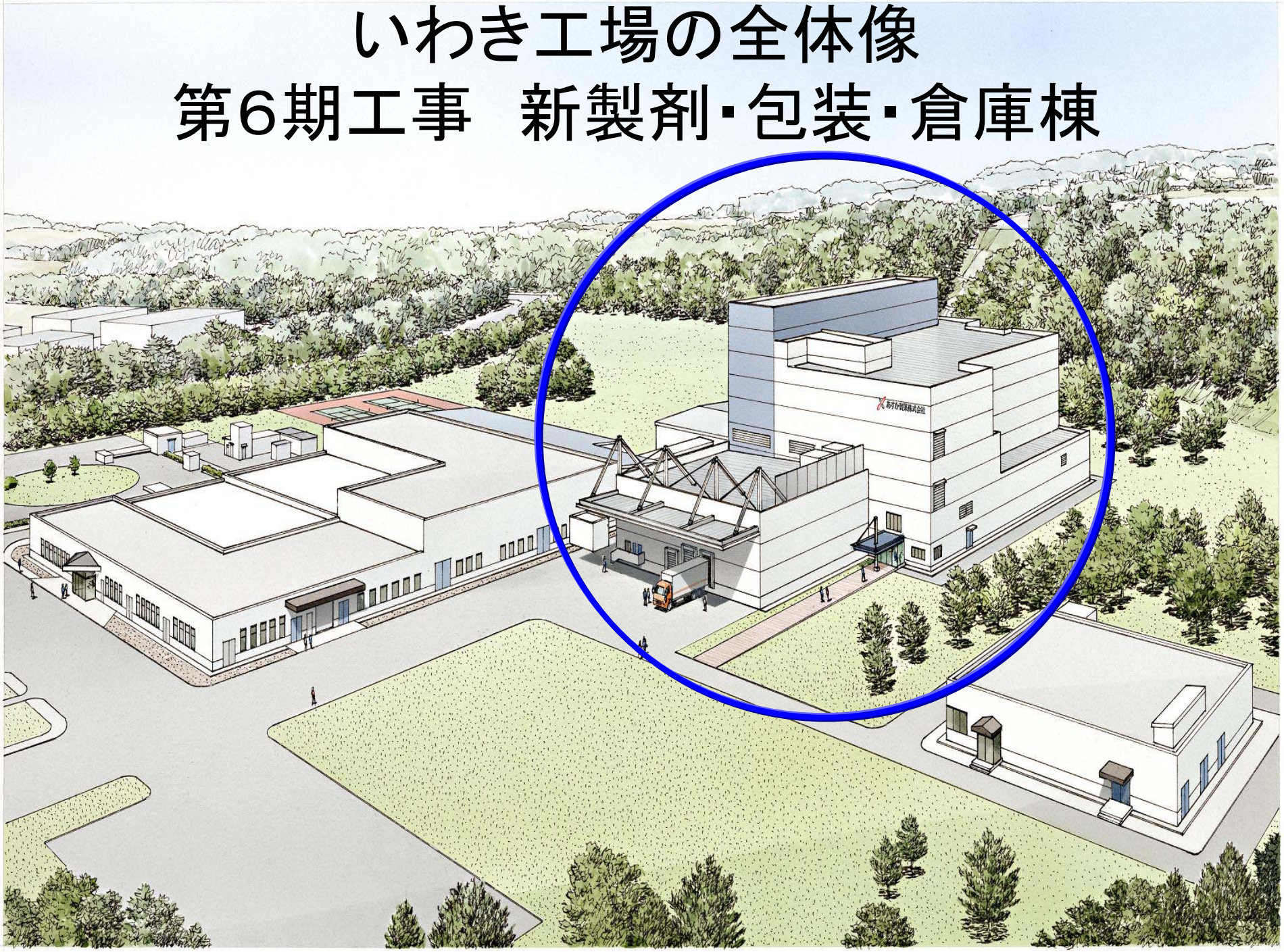
あすか製薬株式会社

新生産体制



自動化と日米欧3極対応

いわき工場の全体像
第6期工事　新製剤・包装・倉庫棟



株主還元について

配当方針

2008年3月期は、期末配当を7円とし、中間配当金7円と合わせ年間14円といたします。

2009年3月期は、安定配当として年間配当金14円を予定しております。

また、今後の配当につきましては、安定配当を基本とし、業績、財務状況および今後の事業展開等を勘案し、成果の配分を高めてまいります。

まとめ

―あすか成長への取り組み―

- 産婦人科領域でのシェア獲得（市場の10%）とスペシャリティーの確立
- ジェネリック品育成とコスト競争力への対策
  （売上高100億円）
- 次世代型経口フィルム製剤の製品化
- 主力製品のライフサイクルマネジメント
- バイオ製剤の製品化
- 積極的なアライアンスによる更なるパイプラインの充実
- ８品目の開発テーマのステージアップ

この資料に含まれる将来の予測に関する事項は、発表日現在において入手可能な情報による当社の仮定および判断に基づくものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しております

したがって、実際の業績、開発見通し等は今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき願います

医薬品（開発中のものを含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません

＜お問い合わせ先＞
社長室
Tel　：　03－5484－8910
e-mail　：　sugimoto-t@aska-pharma.co.jp
担当　：　杉本　隆雄

あすか製薬株式会社